

国語

(問題)

2021年度

〈R03122064〉

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子および解答用紙には手をふれないでください。
2. 問題は3～15ページに書かれています。本文は二段になっています。試験中に問題冊子の印刷が見にくい、ページがぬけている、解答用紙のよれなどに気づいた場合は、手をあげて監督員に知らせてください。
3. 解答はすべて指定された場所に、HBあるいはBの黒の鉛筆またはシャープペンシルで正しいに記入してください。
4. 解答用紙記入上の注意
 - (1) 解答用紙の指定された場所(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に正しいに記入してください。
 - (2) 指定された場所以外に受験番号・氏名を書いた解答用紙は採点しない場合があります。
 - (3) 受験番号は右づめで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないでください。
 - (4) 解答用紙は折り線のところで折ってから解答してください。
 - (5) 解答の際は、「、」や「。」も一字と数えます。
5. 解答はすべて指定された解答らんに入ってください。指定された解答らん以外に何かを記入した解答用紙は、採点しない場合があります。
6. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにしてください。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出してください。
8. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

みなさんは、「はじめに少し難しくてもおもしろそうな問題を出してもらって、一人ひとりがその実験の結果を予想して、話し合ってから実験する」という授業を、少しは気にいっていただけでしょか。みなさんがやったその授業は「仮説実験授業」といいますが、その授業でとりあげた問題は、みなさんの先生方と私とがいっしょに考え出した問題なのです。

みなさんが上級学校に行っても、もうそういう授業をうけることはないかもしれません。仮説実験授業というのは、小中学校でも高等学校でもできるので、いい問題を作るのはなかなかむずかしいうえに、いい問題ができて、授業にそういう問題をとりあげる先生はまだまだ少ないからです。だから、「みなさんが仮説実験授業をうけるのはこれで最後」ということになるかもしれません。そこで最後に、みなさんといっしょに、「科学とはどういうものか」「科学を学ぶとはどういうことか」ということについて、もう一度考えてみたいと思います。

(中 略)

「仮説実験授業がすきだ」という人がその理由として一番よくあげるのは、討論・話し合いです。授業の時、ときにはケンカのように

なはげしい言いあいになることがあります。そういうことがあると、その授業のことはなかなか忘れられません。「ケンカはいけなし」といったって、「ケンカになるくらい夢中で考える」というのはすばらしいことだ、といえますね。

(中 略)

① 小学生はかなり自由に自分の意見を出しますが、中学生ともなるとなかなか意見を言わなくなります。そして高校生になると、ほんの一部の人以外はクラスみんなの前で意見を言えなくなります。不思議なことです。小学生や中学生の時にたのしく討論した人たちにとつては、考えられないことです。討論は、自分の意見を言うことも他の人の意見をきくこともとてもたのしいことなのに、年をとるにつれてどうしてそういうたのしいことができなくなるのでしょうか。

それは、「多くの人びとが、② 討論とか話し合いというものの本当のたのしさを知らずに年をとってしまふからだ」といってもいいでしょう。人間は年をとるにつれて、他の人のことがとても気になるようになります。そして、「まちがえたら恥ずかしい」という気持ちが増すのです。それにまた、いい考えを出すと、「あの子はいい

かつこうをしようと思ってる」って言われるのをおそれるようになるのです。しかし、私たちが話し合いをするのは、いいかつこうをするためでも恥^{はじ}をかくためでもありません。仮説実験授業をうけた人たちなら、そのことが十分にわかるでしょう。

私たちは話し合うと、話し合わなかったときよりもずっとよく考えることができ、知恵^{ちえ}の出し方もわかってかしこくなれるのです。意見を言った人がかしこくなれるだけではありません。いい思いつきを言ったときはもちろんのこと、^③まちがったことを言っても、みんながかしこくなるのを助けられるのです。

小学校の2く3年ぐらいの子どもは、「自分の予想が当たるかどうか」ということばかりをとでも気にすることが多いものです。

A、少し大きくなると、「いい意見を言いたい」と思うようになります。そしてクラスの友だちの一人でも「○○さんの意見をきいて予想を変えます」と言ってくれと、とてもうれしく思えます。ほかの人の意見をかえるのはとてもむずかしいことですが、それがとてもたのしいのです。

みなさんのクラスでは、先生がみんなの授業の感想をきいて、その結果を発表してくれたことはありませんか。そんなとき、友だちのだれかが「今日は○○さんがとてもいい意見を言った」などと書いてくると、とてもうれしく思えるものです。私たちは知恵をだしあってはじめて、みんなで進歩していけるのです。

科学の歴史をしらべてみると、科学というのは民主主義の発達し

ている国だけで進歩したことがわかります。みんながまちがった意見やおもしろい意見を自由に出しあってはじめていろいろな考えが出そうようになり、それでやっと科学が進歩するようになったのです。だから、みなさんが討論をたのしむことができたとしたら、それはすばらしい進歩といってまちがいないと思います。民主主義というのは科学を産み育てるだけではありません。政治もあらゆる文化も、民主主義があってはじめてなりたつのです。外国をまねするだけの文化は民主主義がなくても育つかもしれませんが、これからのみなさんの時代は、そういうわけにはいきません。**B**、ことさら、みなさんが大きくなっても自由に意見を出しあえるようになってほしい、と思うのです。

仮説実験授業のたのしさは、予想と討論のほかに実験の結果をみるたのしさもあるということはいままでもないでしょう。また、いろいろな問題をやったあと、むかしの科学者の研究の話や、教室では実験できないような話を読むのがたのしいという人もいることでしょう。

C 私は、仮説実験授業をうけた子どもたちが書いてくれた感想文を読んで、「とてもおもしろい問題が多いのでたのしい。こういう問題はどうかやって思いつくのだろう」という感想に出会うことがあります。そんなとき「いまの子どもたちはなんて鋭い^{すどろ}のだろう」と思います。考えてみれば、^④これはあたりまえのことなのか

もしれません。が、私もついすっかり忘れるところだったのです。そこで、そのことを書いて、この話をむすぶことにしたいと思います。

「どんな問題でもいいから予想をたてて討論して実験すればそれだのしい授業になるか」というと、そういうわけにはいきません。問題がよくないと、予想をたてたり討論したりする気もしないし、実験をしてもたのしくないのです。そこで、仮説実験授業の授業書（テキスト、プリント）を作るには、いい問題を作るのがいちばん重要になるのです。

仮説実験授業のことをよく知らない人は、「そういう授業をやるのなら、子どもたちみんなに問題を作らせればいいではないか」などといえます。ところが、「自分たちでいい問題をいくつも作れるぐらいなら、もう学校なんかに行かなくてもいい」とも言えるくらい、問題をつくるのはむずかしいのです。その点、仮説実験授業をうけている子どもはさすがにちがいます。いい問題を考えつくことの大切なことを知っているからです。

じつは、科学の歴史の上でもっともすぐれた科学者というのは、「みんなが解けないむずかしい問題を解いてみせた人」ではありません。一番えらい科学者というのは、「やってみればだれでも実験できそうな問題だけれども、それまでだれも考えたことのないような問題で、しかもたいのの人がまちがって予想するような問題」を考えついて実験してたしかめた人なのです。そういう科学者はみ

な、^aむかしの科学者の研究したことをくわしく勉強しています。そして「むずかしい問題を解くことよりも、たのしい問題を考えつくことの方がずっと大切だ」ということに気がついて、「自分でもおもしろい問題を見つけよう」と努力してきたのです。そこでそういう科学者は、むかしの科学者のまねをしているうちに、他の人たちの気がつかないようなたのしい問題を発見して、みんなを「あつ」と言わせることができたのです。

仮説実験授業をうけたみなさんには、このことに気づいている人がたくさんいるようです。そして、自分でもたのしい問題^⑤をみつけようとしている人も少なくありません。そして、おもしろい問題をみつけてみんなでやってみた人も少なくありません。その中には、仮説実験授業の授業書の中にとりあげられている問題もあります。

仮説実験授業で私が一番たのしみにしていること、それはみなさんが自分でいい問題——みんなが考えたくないような問題を考えつくようになることです。それはみなさんがおとなになってどんな仕事をやるにせよ、大切なことです。いい問題を考えつくのはそう簡単なことではありませんが、そうむずかしいともいえません。ずっと心がけていれば、いつかはどこかで気づくようになるものです。そうしたら、もしかしたら、そこからあなたの一生の仕事がひろがってくるかもしれません。

「人間というものは、いい問題に出会ったらみんなたのしくなつて頭を使い、話し合いたくなり、めんどろなことでまでして実験して

みたくなるものだ」——私はそう思っています。そして、みなさんもそれに**b**さんせいしてくださると思っ
ています。みなさんがそのことを知って、自分でいい問題を見つけれ
るようになったらすばらしいことだと思
います。たのしく頭を働かせる勉強をつづけてい
れば、きっとそういう問題にも気づくよ
うになるでしょう。

いつの世でも、おとなは子どもに大きな希望をもっているもので
す。しかし、時代が大きく変わろうと
するとき、おとなはむかしの時代のことしか知らないものだから、子どもたちとうまく意見があ
わなくて、がみがみ叱ることしかできなくなったりします。

むかしは「勉強というのはたのしくないもの」にきまっ
ていて、「いやでもむりやりやるもの」とされて
いました。しかし、これか
らの時代はちがいます。^⑥ふつうの授業ではあまり目立たな
かった人

も、仮説実験授業では、あるとき突然にクラスとっせんのみんなの注目をあ
びることもあったと思います。新しい時代、みなさんの時代は、そ
のように一人ひとりが自分の持ち前のよさをは**c**きして助け合うこ
とによってたのしくき**d**ずくことができるにちがいありません。

^⑦新しい時代がもつとはつきりとした形をととのえるまで、みなさ
んの学校生活はたのしい授業ばかりとはいえませんが、めげずに、
少しでもたのしく勉強する方法を考え出して、新しい社会をきずく
ようにしてくださいようにおねがいます。きっとみなさんがおと
なになるころには、私たちおとなの時代よりも、もつとすばらしい
たのしい社会ができることだろうと思うのです。

(板倉聖宣『なぜ学ぶのか 科学者からの手紙』より・一部改)

問一 — a 「むかし」 ・ — b 「さんせい」 ・ — c 「はつき」 ・ — d 「きず」 のひらがなを漢字に直しなさい。

問二

 ・

 ・

 に入る語句をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア しかも イ ところで ウ あるいは エ つまり オ だから カ しかし

問三 — ①にある漢字（小・学・生・自・由・分・意・見・出）が用いられている語句を次から二つ選び、漢字に直しなさい。

イ シンデンシン シンシヨウボウダイ ヒンコウホウセイ ジジツムコン タイギメイブン

問四 — ②「討論とか話し合いというものの本当のたのしさ」とありますが、その説明として適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア みんなで知恵を出し合うことのたのしさ。

イ 自分の意見が正解だとわかったときのたのしさ。

ウ 話し合いをきっかけとして思考を深められるというたのしさ。

エ 正誤にかかわらず、自分の意見が注目を浴びたときのたのしさ。

問五 — ③「まちがったことを言っても、みんながかしこくなるのを助けられる」とありますが、それはなぜですか。その答えとなる内容

がふくまれた一文の、はじめの五字を抜き出して答えなさい。

問六 — ④「これ」とありますが、その内容にあたる語句を、本文中から十七字で抜き出して、そのはじめとおわりの三字を答えなさい。

問七 — ⑤「たのしい問題」とありますが、その小学校低学年向けの例として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 粘土をはかりの皿に置くとき、皿からはみ出しているも重さは変わらないかどうか。

イ 1と自分自身以外では割り切れないという性質を持つ、2以上の整数はいくつあるか。

ウ 大西洋の水と太平洋の水とを比べたとき、それにふくまれる塩分の濃さが同じかどうか。

エ 走っている人間と走っている電車の速さをくらべた時、どちらのほうがより速く走るか。

問八 — ⑥ 「ふつうの授業」とありますが、それはどのようなことを目的にした授業ですか。三十六字以上四十五字以内で説明しなさい。

問九 — ⑦ 「新しい時代」とありますが、それに対して古い時代は、どのようなことが求められましたか。「こと」に続けられる七字の語句を、本文中から抜き出して答えなさい。

問十 本文の内容として適切でないものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自由な意見交換は聞く人もふくめていい思い付きを生む。
イ 新しい学びのかたちは前の世代には理解しにくいものだ。
ウ 実験によって得られた結果は新しい世代の仮説を深める。
エ 問題がよければ意見を戦わせたり予想したりしたくなる。
オ すぐれた科学者はまわりの人々から常に助けられてきた。
カ 民主主義は考えの多様さを生み出し世の中を進歩させる。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〈これまでのあらすじ〉

音楽家の家に生まれた少年クリストフは厳しい父と優しい母（ルイザ）に育てられ、音楽の才能をあらわしていく。祖父はクリストフの才能を認め、将来に望みをかけて愛した。そのクリストフには、親族からあまり重んじられていない行商人のおじ（母の弟）がいた。

クリストフは子供によく見られる思いやりのないけいそつ^aきで、父や祖父の真似^{まね}をして、この小さい行商人をばかにしていた。おかしな玩具^{おもちゃ}かなんかのように彼^{かれ}を面白^{おもしろ}がったり、悪ふざけをしてからかったりした。それをおじ（小さい行商人）^①はおちつき払^{はら}って我慢^{がまん}していた。でもクリストフは、知らず知らずに彼を好いてるのだった。第一に、思うままになるおとなしい玩具として、彼が好きだった。それからまた、いつもま^bちがいのあるいいもの、菓子とか絵とか珍しい玩具^{めずし}などを持って来てくれるから、好きだった。この小さい男^{おとこ}が戻^{もど}って来ると、思いがけなく何か貰^{もら}えるので、子供たちはうれしかった。彼は貧乏^{びんぼう}だったけれど、どうにかくめん^cして一人一人に土産物^{みやげもの}を持って来てくれた。また彼は家の人たちの祝い日を一度も忘れることがなかった。誰^{だれ}かの祝い日になると、きつとやってきて、心をこめて選んだかわいい贈物^{おくりもの}をポケットからとりだした。誰もお礼をいうのを忘れるほどそれに馴^なれきっていた。彼の方では、贈物^{おくりもの}をすることがうれしくて、それだけでも満足してゐるらしかった。けれど、クリストフはいつも夜よく眠^{ねむ}れないで、夜の間に昼間

の出来事を思いかえしてみる癖^{くせ}があつて、そんな時に、おじはたいへん親切な人だと考え、その憐れ^{あは}な人に対する感謝の気持ちをごみ上げて来るのだった。しかし昼になると、また彼をばかにすることばかり考えて、感謝の様子などは少しも見せなかった。その上、クリストフはまだ小さかったので、善良であるということの価値が十分にわからなかった。子供の頭には、善良と馬鹿^{ばか}とは、^②だいたい同じ意味の言葉と思われるものである。おじのゴットフリートは、その生きた証^{しょうこ}拠^このようだった。

ある晩、クリストフの父が夕食をたべに町に出かけた時、ゴットフリートは下の広間に一人残っていたが、ルイザが二人の子供をねかしている間に、外に出てゆき、少し先の河岸にいつて坐^{すわ}った。クリストフはほかにすることもなかったの、あとからついていった。そしていつもの通り、子犬のようにじゃれついていじめた揚句^{あげく}、とうとう息を切らして、おじの足もとの草の上にねころんだ。腹ばいになって芝生^{しばふ}に顔をうずめた。息切れがとまると、また何か悪口をいつてやろうと考えた。そして悪口が見つかったので、やはり顔を

地面に埋めたまま、笑いこけながら大声でそれをいってやった。けれど何の返事もなかった。それでびっくりして顔を上げ、もう一度そのおかしい冗談をいってやろうとした。すると、ゴットフリートの顔が目の前にあった。その顔は、金色の霧のなかに沈んでゆく夕日の残りの光に照らされていた。クリストフの言葉は喉もとにつかえた。ゴットフリートは目を半ばとじ、口を少しあけて、ぼんやり微笑んでいた。そのなやましげな顔には、何ともいえぬ誠実さが見えていた。クリストフは頬杖をついて、彼を見守りはじめた。もう夜になりかかっていた。ゴットフリートの顔は少しずつ消えていった。あたりはひっそりとしていた。ゴットフリートの顔にうかんでる神秘的な感じに、クリストフも引きこまれていった。地面は影におおわれており、空はあかるかった。星がきらめきだしていた。河のさざ波が岸にひたひた音をたてていた。クリストフは気がぼろとして来た。目にも見ないで、草の小さな茎をかみきっていた。蟋蟀が一匹そばで鳴いていた。彼は眠りかけてるような気持ちだった。

と突然、暗いなかで、ゴットフリートが歌いだした。胸の中で響くようなおぼろな弱い声だった。少しはなれてたら、聞きとれなかったかも知れない。しかしその声には、人の心を打つ誠がこもっていた。声に出して考えているのかと思えるほどだった。ちょうど透きとおった水を通して見るように、その音楽を通して彼の心の奥底までも読みとられそうだった。クリストフはこれまで、そんな風な歌い方をきいたことがなかった。またそんな歌を聞いたこともなか

った。ゆるやかな単純な幼稚な歌で、重々しい寂しげな、そして少し単調な足どりで、決して急がずに進んでゆく——時々長い間やすんで——それからまた行方もかまわず進み出し、夜のうちに消えていった。ごく遠いところからやって来るようでもあるし、どこへ行くのかわからなくもあった。朗らかではあるが、なやましいものがあるこもっていた。表面は平和だったが、下には長い年月のなやみがひそんでいた。クリストフはもう息もつかず、身体を動かすことも出来ないで、感動のあまり冷たくなっていた。歌が終わると、彼はゴットフリートの方へはい寄った。そして喉をつまらした声でいいかけた。

「おじさん……」

ゴットフリートは返事をしなかった。

「おじさん！」とクリストフはくりかえして、両手とあごを彼のひざにのせた。

ゴットフリートはやさしい声でいった。

「何だい……」

「それ何なの、おじさん。教えてよ。おじさんが歌ったのなあに？」

「知らないね。」

「何だか教えとくれよ。」

「知らないよ。歌だよ。」

「おじさんの歌かい。」

「おれのなもんか、ばかな……古い歌だよ。」

「誰がつくったの？」

「わからないね。」

「いつ出来たの？」

「わからないね。」

「おじさんの小さいじぶんにかい？」

「おれが生まれる前だ。おれのお父さんが生まれる前、お父さんのお父さんが生まれる前、お父さんのお父さんのそのまたお父さんが生まれる前だ……。この歌はいつでもあつたんだよ。」

「変だね！ 誰にもそんなこと聞いたことがないよ。」

彼はちよつと考えた。

「おじさん、まだほかのを知ってる？」

「ああ」

「もう一つ歌って。」

「なぜもう一つ歌うんだい？ 一つで沢山たくさんだよ。」^⑥ 歌いたい時に、歌わなくちゃならない時に、歌うものなんだ。面白半分に歌っちゃいけない。」

「でも、音楽をつくる時はどうなの？」

「これは音楽じゃないよ。」

子供は考えこんだ。よくわからなかった。けれど説明してもらわなくてもよかった。なるほど、それは音楽ではなかった。普通の歌ふつうみたいに音楽ではなかった。彼はいった。

「おじさん、おじさんはつくったことある？」

「何をさ。」

「歌を。」

「歌？ どうして歌をつくるのさ。歌はつくるものじゃないよ。」

子供はいつもの論法でいいはった。

「でも、おじさん、一度は誰かがつくったにちがいないよ。」

ゴットフリートは頑がんとして頭を振った。

「いつでもあつたんだよ。」

子供はいい進んだ。

「だって、おじさん、ほかの歌を、新しい歌を、つくることは出来るんじゃないか。」

「なぜつくるんだ。もうどんなでもあるんだ。悲しい時のもあるれば、嬉しい時のもある。疲れた時のあれば、遠い家のことを思う時のもある。自分がいやしい罪人だったからといって、まるで虫けらみたいなものだったからといって、自分の身がつくづくいやになった時のもある。ほかの人が親切にしてくれなかったからといって、泣きたくなった時のもある。天気がよくて、いつも親切に笑いかけて下さる神様のような大空が見えるからといって、楽しくなった時のもある。……どんなのでも、どんなのでもあるんだよ。何でほかのをつくる必要があるものか。」

「偉い人になるためにさ……」と子供はいった。彼の頭は、祖父の教おしえと子供らしい夢とで一ぱいになっていた。

ゴットフリートは穏おだやかに笑った。クリストフは少しむつとして

尋ねた。

「なぜ笑うんだい！」

ゴットフリートはいった。

⑦「ああ、おれは、おれはつまらない人間さ。」

そして子供の頭をやさしく撫でながらきいた。

「お前は、偉い人になりたいんだね？」

「そうだよ。」とクリストフは得意げに答えた。

彼はゴットフリートがほめてくれるだろうと思っていた。しかし

ゴットフリートはきき返した。

「何のためにだい？」

クリストフはまごついた。そして、ちよつと考えてからいった。

「立派な歌をつくるためだよ。」

ゴットフリートはまた笑った。そしていった。

「偉い人になるために歌をつくりたいんだね。そして、歌をつくるために偉い人になりたいんだね。それじゃあ、尻尾を追っかけてぐるぐるまわってる犬みたいだ。」

クリストフはひどく気にさわった。ほかの時だったら、いつもばかりにしているおじからあべこべにばかりにされるなんて、我慢が出来なかったかもしれない。それにまた理窟で自分をやりこめるほどゴットフリートが利口などとは、思いもよらないことだった。彼はやり返してやる議論か悪口を考えたが、思いあたらなかった。ゴットフリートは続けていった。

「もしお前が、ここからコブレンツまであるほど大きな人物になつたところで、たった一つの歌もつくれやすまい。」

クリストフはむっとした。

「つくろうと思っても……」

「思えば思うほど出来なくなるんだ。歌をつくるには、あの通りでなくちゃいけない。おききよ……」

月は野の向こうに昇つて、まるく輝いていた。銀色の霧が、地面とすれすれに、また鏡のような水面に漂っていた。蛙が語りあっていた。牧場の中には、美しい調子の笛のような慕のなく声が聞こえていた。蟋蟀の鋭い顫え声は、星のきらめきに答えてるかのようだった。風は静かに榛の枝をそよがしていた。河の向こうの丘からは、鶯のか弱い歌がひびいてきた。

「いったいどんなものを歌う必要があるのか？」ゴットフリートは長い間黙つていてから、ほつと息をしていった。——（自分に向かつていつているのか、クリストフに向かつていつているのか、よくわからなかった。）——「お前がどんな歌をつくろうと、ああいうものの方が一そう立派に歌っているじゃないか。」

クリストフはこれまで何度も、それらの夜の声を聞いていた。しかしまだこんな風に聞いたことはなかった。本当だ、どんなものを歌う必要があるか？……彼はやさしさと悲しき胸が一ぱいになるのを感じた。牧場を、河を、空を、なつかしい星を、胸に抱きしめたかった。そしておじのゴットフリートに対して、しみじみと愛情

を覚えた。もう今は、すべての人のうちで、ゴットフリートがいちばんよく、いちばん賢く、いちばん立派に思われた。彼はおじをどんなに見違えていたことかと考えた。自分から見違えられていたために、おじは悲しんでいるのだと考えた。彼は後悔の念にうたれた。こう叫びたい気がした。「おじさん、もう悲しまないでね。もう意地悪はしないよ。許しておくれよ。僕はおじさんが大好きだ！」しかし彼はいえなかった。——そしていきなりおじの腕の中にとびこんだ。言葉は出なかった。彼はただくり返した。「僕はおじさんが好きだ！」そして心をこめて抱きついた。ゴットフリートはびっくりし、感動して、「何だ、何だ？」とくり返しながら、同じように彼を抱きしめた。——それから彼は立ち上がり、子供の手をとって

いった。「もう家へかえろう。」クリストフは自分の気持ちがおじにはわからなかったのではないかしらと、また悲しい気持ちになった。しかし家のところまで来ると、おじはいった。「また晩に、お前さえよかつたら、一しよに神様の音楽をききに行こう。もつとほかの歌も歌ってあげよう。」そしてクリストフは、感謝の気持ちで一ぱいになって、おやすみの挨拶をしながら、抱きついた時、おじがよくわかってくれたのを見てとった。

(ロマン・ロラン「ジャン・クリストフ」(豊島与志雄・訳)より・一部改)

※コブレンツ……ドイツの都市名。

問一 — a 「けいそつ」・ — b 「ま」・ — c 「くめん」・ — d 「じぶん」のひらがなを漢字に直しなさい。

問二 — ① 「知らず知らず」と最も意味の近い言葉を選び、記号で答えなさい。

ア そら知らず イ つゆ知らず ウ いざ知らず エ 情け知らず オ われ知らず

問三 — ② 「だいたい同じ意味の言葉と思われる」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 他者への思いやりがある素直な^{すなお}性格の人物は、人にあなどられても逆らうことをせず、言われるままにしているから。
- イ 他者の喜びを自分の喜びとして感じられる人物は、人の悲しみも自分のことのように感じ、つかれ果ててしまうから。
- ウ 他者への不満をためこみ人に知られないようにする人物は、人と交流しても、よい関係をつくることができないから。
- エ 他者からののしられて本気で受け止める人物は、人にほめられても、それを本当のこととは感じられないはずだから。

問四 — ③ 「引きこまれていった」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア あたり一面が暗くなっていく中で、おじの顔つきをはっきり見たいと思ったから。
- イ おじの顔つきに、いつものおじとは異なる、奥ぶかいふんいきが感じられたから。
- ウ しずみつつある夕日の光のなかで、おじがおじでなくなってしまう気がしたから。
- エ 自分が大声で話しかけているのに何の反応も示さないおじに、怒^{いか}りを覚えたから。

問五 — ④ 「彼の心の奥底」とありますが、そこにあるものは何ですか。本文中から八字で抜き出して答えなさい。

問六 — ⑤ 「両手とあごを彼のひざにのせた」とありますが、次の語句の に〈手・あご・ひざ〉が入らないものを二つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| エ | ア | オ | イ | カ | ウ |
| <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| でつかう | が笑う | を決める | もくれない | がつけられない | を染める |

問七 — ⑥ 「歌いたい時に、歌わなくちゃならない時に、歌うものなんだ」とありますが、そういう「歌」から感じることをできるものを、本文中から七字で抜き出して答えなさい。

問八 — ⑦ 「ああ、おれは、おれはつまらない人間さ」とありますが、ここにこめられたゴットフリートの気持ちとして最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア クリストフが祖父や父の言いなりになってしまっていることを、危険だと感じている。

イ 親族の中で自分だけが貧しく生活していることを、あらためて恥^はずかしく思っている。

ウ 自分が、クリストフが思うようなえらい人間ではないことをさびしく受け入れている。

エ クリストフが耳をかたむけようとしない自然の音と、自分は同じ存在だと考えている。

問九 — ⑧ 「夜の声」とありますが、それを通してクリストフが学んだ、作曲する上で最も大切なことは何ですか。三十六字以上四十五字

以内に説明しなさい。

問十 この物語を通して、クリストフのゴットフリートに対する「好き」という気持ちの中身はどう変化しましたか。その説明として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア はじめはプレゼントをくれる存在として好意をいだいていたが、初めて自分にきびしく接してくれた大人として敬う気持ちへと変わった。

イ はじめはふざけて馬鹿にするのが楽しい親族にすぎなかったが、音楽の上手な作り方を教えてくれる特別な人間として見るようになった。

ウ はじめはおもちゃとして自由になるところが気に入っていたが、人が歩む道をわかりやすく示してくれる知性に心ひかれるようになった。

エ はじめは甘え^{あま}とあなどりが入りまじった親しみだったが、歌や人生の最も大切なものを教えてくれたという敬意に満ちた好意に変わった。

〔以下 余白〕

国語解答用紙

<R 03122064>

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 指定された場所以外に受験番号・氏名を書いた解答用紙は採点しない場合があります。

[illegible]

<R 03122064>

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 指定された場所以外に受験番号・氏名を書いた解答用紙は採点しない場合があります。

採点欄
国語

[illegible]